

TOP NEWS

平成30年度北海道大学病院 地域連携懇話会を開催

10月26日(金) 午後4時から京王プラザホテル札幌において、平成30年度北海道大学病院地域連携懇話会を開催しました。本懇話会では、療養型施設、急性期病院、在宅医療など、地域包括ケアにおいてそれぞれの役割を担う施設の医療従事者や、地域医療構想から見た慢性期医療について知見のある地域医療計画の研究者にご登壇いただきました。

第1部は「急性期病院における入退院支援の現状と課題」をテーマに、①「急性期病院における入退院支援のシステム」と題して、旭川医科大学病院看護部の金田豊子副看護部長、②「急性期病院における入退院支援の実際」と題して、手稲溪仁会病院患者サポートセンターの御家瀬真由看護師長、③「入退院支援における人材の育成」と題して、当院地域医療連携福祉センターの石岡明子看護部長から講演がありました。引き続き第2部では、長崎大学大学院医歯薬学総合研究科の松本武浩准教授から、「急性期病院における業務集中化と職種別役割分担の取組み～メディカルサポートセンターの価値と効果～」と題して基調講演をいただきました。

第3部では、第1部・第2部の講演者、寶金清博病院長、渥美達也地域医療連携福祉センター長、及び樋田泰浩同センター長、佐藤ひとみ看護部長を加えたパネルディスカッション

を行い、主に入退院支援に関する業務の効率化、医療職から医療支援職種への業務シフトや人材育成のあり方等について議論が展開されました。

当日は131名(院外98名・院内33名)の参加者があり、講演後の質疑応答、そしてその後の懇親会まで、盛況のうちに本懇話会を終了しました。



懇話会の様子



旭川医科大学病院 金田副看護部長による講演



手稲溪仁会病院 御家瀬看護師長による講演



長崎大学 松本准教授による基調講演



パネルディスカッション



懇親会: 寶金病院長による乾杯の発声



懇親会: 佐藤看護部長による挨拶

外来診療のご紹介

耳鼻咽喉科は当科の柱である頭頸部腫瘍診療を中心に、聴覚、免疫・アレルギー、音声、前庭と各種専門外来を有し、多種多様な疾患の診断および治療を行っております。

頭頸部腫瘍外来（毎週火曜午前）

頭頸部腫瘍症例は、放射線治療科、腫瘍内科など関連診療科との合同カンファレンスによってステージングと治療方針の決定が行われます。近年のトピックスとして、抗 PD-1 抗体であるニボルマブ(オプジーボ®)の頭頸部癌への適応拡大があります。再発、転移を有するなど対象には制限がありますが、腫瘍内科と協力の上、症例数は徐々に増加しております。また、頭頸部癌に対するシスプラチンの超選択的動注と放射線同時併用療法も継続して行っています。

聴覚外来（毎週金曜午前・午後）

外来診療では、幼少児の難聴症例が増加しております。ABR、ASSRなどの各種検査が施行できる体制を整え、先天性難聴に対する遺伝子検査も行っています。信州大学との共同研究で保険診療ではカバーされない難聴遺伝子の検索も行っています。手術は、慢性中耳炎、真珠腫性中耳炎、耳硬化症などの疾患を中心に行っており、人工内耳植込術の症例も増加しております。

免疫・アレルギー外来（毎週水曜午前・午後）

好酸球性副鼻腔炎や ANCA関連血管炎、IgG4関連疾患などの炎症性疾患を中心に診療を行っております。手術治療としては、好酸球性副鼻腔炎に対する内視鏡下手術が多く施行され



ています。内反性乳頭腫などの良性腫瘍のみならず、頭蓋底浸潤を伴う悪性腫瘍に対しても内視鏡手術を主体とした低侵襲な手術を目指しています。

音声外来（第2・第4水曜午前・午後）

道内でも数少ない音声専門外来では、一側性声帯麻痺から痙攣性発声障害など幅広い疾患に対応しています。外来局所麻酔下での腫瘍生検やポリープ切除、甲状軟骨形成術などの音声改善手術を積極的に行っています。また、保険適応となった痙攣性発声障害に対するボツリヌス毒素治療も行っております。

前庭外来（毎週金曜午前・午後）

前庭外来では各種検査に力を入れており、従来のカロリックテストに加え、前庭誘発筋電位検査(VEMP)や、新しい半規管機能検査として注目されている video Head Impulse Test、ラバー負荷重心動揺計などを導入しております。

おわりに

今後も地域への社会貢献のため、大学病院ならではの専門性の高い、最新の耳鼻咽喉科医療を提供していきたいと考えております。引き続きご紹介のほど、宜しくお願い申し上げます。

耳鼻咽喉科 初診体制

月	火	水	木	金
3~4名(不定)	他院紹介の 頭頸部腫瘍のみ可能	本間明宏、加納里志、 水町貴諭のうち1名 他4~5名		中丸 裕爾 他4~5名

※新患はチーフのみ固定。あとは不定。

耳鼻咽喉科 再診体制

	月	火	水	木	金
再来	2名(不定)			2名(不定)	
専門外来		頭頸部外来 本間明宏、加納里志、 水町貴諭、対馬那由多、 鈴木崇祥	アレルギー外来(予約のみ) 中丸裕爾、鈴木正宣、 中園 彬	特殊外来(予約のみ)	前庭外来(予約のみ) 藤原圭志
			音声外来(隔週) 溝口兼司、寺田木の美		聴覚外来(予約のみ) 森田真也、福田 篤

外来診療のご紹介

小児科外来は幅広い分野で専門性の高い疾患に対応できるよう、10の診療グループによって専門性の高い医療を提供しています。地域連携を重視しており、道内各地にある関連病院とも協力してスムーズに患者さんをご紹介いただけるよう調整しています。

一般新来は月～金曜日午前に行っています。診療グループへの紹介予約は、診療グループによって診療時間が異なりますので、小児科外来受付までご相談ください。



【診療グループ】

免疫外来：免疫不全症、膠原病、アレルギー疾患など
 神経外来：てんかん、発達障害、神経筋疾患など
 血液外来：小児血液疾患、固形腫瘍など
 腎臓外来：ネフローゼ症候群、慢性腎炎、腎不全など
 内分泌外来：糖尿病、甲状腺疾患、低身長、副腎疾患など

循環器外来：先天性心疾患、川崎病、心筋症、不整脈など
 新生児外来：低出生体重児の発達のフォローなど
 感染症外来：感染症の専門的な診断など
 遺伝外来：染色体異常、遺伝相談など
 代謝外来：先天性代謝異常症など

小児科 初診・再診体制

	月		火		水		木		金	
	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM
1診	新来/再来 神経 白石 秀明		新来/再来 免疫 山田 雅文		新来/再来 神経 白石 秀明		新来/再来 血液 井口 晶裕	(エコチル)	新来/再来 血液 井口 晶裕	
2診	代謝 小杉山 清隆(4)		感染 石黒 信久		内分泌・ 糖尿病 中村 明枝	内分泌・ 糖尿病 中村 明枝		血液 井口 晶裕	腎臓 岡本 孝之	
3診	循環器 泉 岳	循環器 泉 岳	内分泌・ 糖尿病 中村 明枝	内分泌・ 糖尿病 中村 明枝	循環器 武田 充人	循環器 武田 充人	循環器 山澤 弘州	循環器 谷口 宏太	アレルギー 竹崎 俊一郎	
4診	血液 長 祐子	血液 長 祐子	内分泌・ 糖尿病 山口 健史	内分泌・ 糖尿病 山口 健史	発達支援 長 和俊	発達支援 長 和俊	腎臓 佐藤 泰征(1.3.5) 高橋 俊行(2.4)		発達支援 古瀬、池田、 恩田、安藤	発達支援 古瀬、池田、 恩田、安藤
5診	神経 江川 潔	神経 白石 秀明	遺伝 外木 秀文(1.3)	神経 植田 佑樹	内分泌 中山、菱村	心理検査 渡邊 由季		心理検査 渡邊 由季	内分泌・糖尿病 山口(1.3.5) 菱村(2.4)	内分泌・糖尿病 山口(1.3.5) 菱村(2.4)
7診			内分泌・ 糖尿病 菱村 希	内分泌・ 糖尿病 菱村 希	神経処方 (1.3)	神経 香坂 忍				
9診	心エコー	心エコー	血液 長 祐子	循環器新来	心エコー	心エコー	心エコー	胎児心エコー		循環器 佐々木 理
予診室			神経 白石 秀明 朝比 奈直子	神経 白石 秀明	神経処方 (2.4.5)	血液・移植 長期外来 杉山 未奈子		腎臓 林 麻子 (1.3.5)	内分泌 中山 加奈子	内分泌 中山 加奈子

診療のご紹介

当院麻酔科の特徴は、大学病院ならではの豊富な経験に基づく臨床の実践です。また集中治療室を含めた周術期（術前、術中、術後急性期）の全身管理にとどまらず、ペインクリニック、緩和ケアなどの痛み治療や高気圧酸素治療を行っています。

麻酔前診察・周術期管理

麻酔科外来では、手術のために必要な全身麻酔を受けるうえでの問題点を確認し、安全な麻酔管理ができるように、麻酔前診察を行っています。当院では、一般的な疾患から非常にまれな疾患まで、また難易度の高い手術や長時間手術が、新生児から高齢者まであらゆる年齢層で、幅広く行われております。このため、麻酔管理にも多岐にわたった知識が必要とされます。予定された手術に最適な麻酔法、また周術期を合併症なく快適に過ごせるような麻酔法を考え、適切な麻酔方法を選択し、説明しております。麻酔法に合わせて、必要な処置などについても説明し、麻酔を受けられるご本人・ご家族の不安を少しでも軽減できるように努めています。最近では、体表エコーを使用した様々なブロックを行い、手術に合わせた適切な鎮痛方法も併せての全身麻酔も増えております。また、麻酔後も重症患者の術後管理を行う集中治療室に麻酔科医が参加している他、麻酔後の容態の確認のために随時病棟への麻酔後訪問も行っています。

ペインクリニック外来

ペインクリニック外来は毎週月・水・金曜日に行っています。主に慢性の神経障害痛と呼ばれる難治性の痛みの治療を行っています。痛みの性質や種類によって内服治療や神経ブロック、レーザー治療などから適切な治療法を選択し、痛みの軽減を目指します。特にレーザー治療は、キセノンレーザー光治療器、近赤外線治療器、半導体レーザー治療器を備え、適応によっては低侵襲で神経ブロックに準じた効果をより安全に得ることが可能です。また緩和ケアにおいても痛みの治療は非常に重要です。現在、当院の緩和ケアチームでは麻酔科医がリーダーとして活躍しております。

痛みは非常に辛い症状です。当院の痛み治療で少しでも患者様の強い痛みが軽減し、日常生活が過ごしやすくなればと思っております。

高気圧酸素治療

高気圧酸素治療とは気圧の高い環境下で純酸素を吸入することで、組織の低酸素などから起こる障害を治療する方法です。当院では第2種高気圧酸素治療装置を設置しており、同時に多人数の治療が可能となっております。一酸化炭素中毒や減圧症、突発性難聴、放射線障害などを対象として治療を行っております。

高気圧酸素治療の際はまずペインクリニック外来を受診していただきますが、院内の患者様の治療を優先させていただくこともあり、軽症の減圧症に対する再圧治療はできない場合もございますので、ご了承ください。

【担当医師】

術前診察

月曜日～金曜日 2名

ペインクリニック外来(午前のみ)

月曜日 森本 他1名

水曜日 藤井 他1名

金曜日 長谷 他1名

外来診療のご案内

審美歯科専門外来は、平成12年に設置され、現在に至っています。「美しい口元」を願って受診希望の患者さんが対象となります。一口に「審美歯科」といってもその主訴は様々です。歯列不正、歯の変色、欠損、金属色を白くしたい、顔貌に関すること…、さらにこれらの訴えが複数関わってくる症例等、総合的な視点で診査、診断、処置を行う必要があります。また、訴えが同じでも、治療のアプローチに対する患者さんの希望も様々です。「きれいにしたいけれど、歯はあまり削りたくない」「頻繁に通院できないので、少ない回数できれいになりませんか？」等々です。

大学病院では専門性の高い各診療科に分かれて診療を行っています。審美歯科のような臨床の総合力を要求される診療では、単科での対応では十分とは言えないので、複数の科での連携が必須となります。2014年度より歯科診療センターの新来患者さんの受け入れは、予約制になりました。新来業務を行っている第一診療室では、保存系、補綴系、口腔系の歯科医師が協力をしながら診察を行っています。必要に応じて歯科矯正科の歯科医師の協力を仰ぐことも可能です。患者さんは、第一診療室で複数の科の歯科医師による診察を受けた後に治療方針の提示を受けて、自分の希望するアプローチを選択することが可能です。

「口元の与える印象」は、命に関わるような疾病とは言えませんが、患者さん本人にとっては、深刻な悩みとなっている場合が少なくありません。そんな悩みを取り去ることができるなら、精神的、社会的な観点から患者さんが受ける恩恵は、計り知れないものがあると思われます。患者さんの幸せのために、歯科全ての科の協力のもとに診療を行っています。



図1. 樹脂系の材料で正中の空隙を閉鎖した症例：歯を削らずに即日処置が可能

初診体制

第一診療室 月～金(午前)

予 約：原則必要

紹介状：なくても受診可能

再診体制

*初診時に第一診療室にて振り分けられた診療科で随時診療を行っていきます。



図2. 金属系の材料を樹脂系の材料に置き換えて白くした症例：即日処置が可能



図3. 変色歯を削らずに、薬剤を用いて白くしたオフィスブリーチングの症例：複数回の外来通院が必要

栄養管理部は病院長直属の一部門で、スタッフは部長の医師1名、管理栄養士7名を含む11名です。

食事は治療の一環であり、医師、看護師とともに患者の栄養状態の評価を行い、患者一人ひとりの病態に沿った栄養管理を行うよう努力しています。高度な治療に伴う病状や、放射線治療、化学療法などの治療に伴う副作用で食欲に影響をおよぼす場合も多いですが、できるだけ召し上がっていただけるように、栄養バランスや塩分量なども配慮しつつ食べやすくおいしい食事作りをめざしています。

入院・外来患者を対象とした栄養相談は、年間3,650件程度であり、栄養サポートチームをはじめ、緩和ケア、糖尿病、摂食嚥下などさまざまなチーム医療に加わり医療の現場を支えています。

入院・外来栄養食事指導のご紹介

入院・外来患者を対象に栄養食事指導を実施しています。当院では患者さんの病態に合わせて糖尿病、腎臓病、消化器疾患術後、心疾患・高血圧、がん、低栄養、摂食・嚥下障害その他代謝疾患等多種多様に対応しています。特に個別相談を多く実施しており、プライバシーに配慮し、より個々にマッチした指導が可能です。また、教育入院(糖尿病・腎臓病)の指導も行っています。入院から外来への移行、その後外来での継続指導も行っており、患者さんと血液データや食事摂取状況を合わせてその効果を確認しています。指導希望日時は患者さんのご都合に合わせて調整可能です。



栄養食事指導



栄養指導実績 (平成 29 年度)

合計3,653件(個人指導3,420件、集団指導233件)

疾患名	計(人)
糖尿病	2,157
腎臓疾患	550
心臓疾患	191
がん	161
肥満症	105
無(低)菌食	79
肝・胆疾患	73
術後	58
高血圧症	54
胃・腸疾患	40
脂質異常症	37
低栄養状態にある患者、その他	148
	3,653

栄養食事指導 (予約制)	
◆個人指導	(入院・外来)月曜日～金曜日(8:30～17:00)
◆集団指導	(入院・外来)月曜日～金曜日(9:00～12:00)
◆糖尿病教室	(入院8日間のうち4コマ担当) 月2回程度
◆腎臓病教室	不定期(13:30～15:00)



糖尿病教育入院プログラム:パイキングの様子

北海道大学病院腫瘍センター 市民公開講座のお知らせ

北海道大学病院では、本院におけるがん診療連携拠点病院機能強化事業の一つとして、がん患者及びその家族の皆さん、また、がん治療に関心のある市民の皆さんを対象に、本院が行っているがんに対する治療法を紹介することを目的として、市民公開講座を毎年度数回開催しています。

今回は放射線治療の紹介を目的として、下記のとおり開催します。

テーマ 放射線治療について知ろう！—最新の診断・治療まで—

日時 平成31年1月27日(日) 14:00~16:30(開場13:00)
場所 北海道大学 学術交流会館 2階講堂(札幌市北区北8条西5丁目)
参加費無料、申込不要

開会挨拶 北海道大学病院 腫瘍センター診療教授 小松 嘉人
総司会 北海道大学病院 放射線治療科長 教授 白土 博樹

講演

- 講演1 「放射線治療の基礎知識」
北海道大学病院 放射線治療科医師 准教授 鬼丸 力也
- 講演2 「陽子線治療」
北海道大学病院 放射線治療科医師 教授 清水 伸一
- 講演3 「定位放射線治療」
北海道大学病院 放射線治療科医師 助教 田口 大志
- 講演4 「強度変調放射線治療」
北海道大学病院 放射線治療科医師 助教 安田 耕一
- 講演5 「緩和的放射線治療」
北海道大学病院 放射線治療科医師 助教 木下 留美子
- 講演6 「放射線治療の医療費の実際」
北海道大学病院 臨床研究開発センター／医事課医事係
特定専門職員 真嶋 貴臣

9月6日発生の北海道胆振東部地震で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

当院も全道的な停電のために当日は外来診療の制限を行い、多くの患者様にご迷惑をおかけしました。その間、連携医療施設と協力して停電の影響の大きかった人工呼吸器、在宅酸素、体外式人工心臓、透析などの治療を受けている患者さんの対応を行わせていただきました。幸い大きなトラブルもなく、2日間の停電を凌ぐことができました。皆様のご理解とご協力に感謝いたします。

被災地域の日も早い復旧をお祈り申し上げます。



■ 外来玄関で急患の受付とトリアージ



■ 院外患者への対応と記録



■ アメニティホールに簡易ベッドや点滴セットを用意し搬入患者に備える



■ 地震、停電への対応を定期的に病院全体会議で確認

編集
後記

今年8月より小児がんソーシャルワーカーとして勤務しております駒形成美です。

小児がんだけでなく、小児科に入院されている方に関わらせていただいております。患者さん、ご家族が安心して過ごせるよう支援していきたいと思っております。不慣れな点も多く、ご迷惑をお掛けすることが多々あるかと思いますが、皆様のお役に立てるよう日々努力していく所存です。どうぞよろしくお願いいたします。

発行 平成30年12月

北海道大学病院

地域医療連携福祉センター

〒060-8648 札幌市北区北14条西5丁目

TEL : 011-706-7943 (直通)

FAX : 011-706-7945 (直通)

<http://www.huhp.hokudai.ac.jp/relation/>